

## 利尻島南部におけるジグモ *Atypus karschii* の記録

佐藤雅彦

〒 097-0311 北海道利尻群利尻町仙法志字本町 136 利尻町立博物館

### A Record of *Atypus karschii* (Atypidae) from Southern Rishiri Island

Masahiko Satō

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

**Abstract.** One hundred eleven nests with various sizes of *Atypus karschii* (Atypidae) were found in southern Rishiri Island, northern Hokkaido in 2014. It is the first observational record of this species from this island.

国内におけるジグモ科ジグモ属はジグモ *Atypus karschii* とヒラヤジグモ *Atypus wataribabaorum*, そして未記載種 1 種が分布するとされている (小野, 2009). その中でもジグモは、庭や住宅、神社など身近な場所にその独特な造巣を行うことからよく知られている一種で、分布は主に本州から九州とされているが、北海道においても記録がある (小野, 2009; 松田, 1997). 利尻島のクモ類についての記録は、これまで Saito (1933), 八木沼・大野 (1967), Ono *et al.* (1991) などにより報告され、これらの文献記録と独自の調査により保田 (2002) は利尻礼文サロベツ国立公園区域におけるクモ類の目録をまとめた。保田 (2002) によると、利尻島からは 162 種のクモ類の記録があるが、ジグモは含まれていない。筆者は 2014 年に利尻島南部の仙法志において本種を確認したので、ここに採集記録を報告する。なお、島内の分布については西島徹さん (杏形), 西島加奈子さん (杏形), また道北地域におけるジグモの分布については保田信紀さん (上川町) に情報提供をいただいた。これらの方々にご心よりお礼申し上げます。

筆者がジグモの営巣に初めて気づいたのは 2014

年 8 月上旬頃のことである。発見場所は、仙法志の利尻町立博物館の前庭であり、句碑の台座 (180 × 250 × 16cm) とその付近におかれた火山礫 (150 × 100 × 80cm) の周囲に多数の営巣が見られた (図



図 1. 仙法志で確認されたジグモの巣。

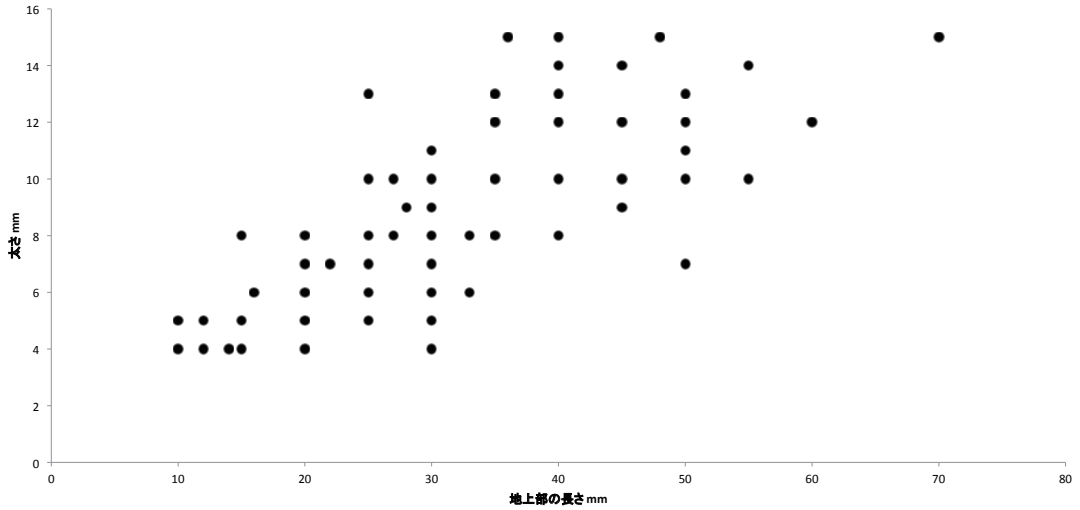


図2. 句碑台座部分の94の巣の地上部の長さとおきの分布。

1). 営巣場所の周囲には別区画の芝生による前庭が隣接・点在するが、発見場所以外での営巣は確認されなかった。その後、9月23日には句碑台座に94、火山礫に17の巣が認められた。巣の多くは台座や火山礫に直接造巣されているものがほとんどであったが、表面の凹凸が激しい火山礫では、周囲の高さ5-6cmの芝生数本に巣を支持させているものも見られた。地上部の長さとおき（地上部で最も太い部分）を計測したところ、最大の巣は70×15mmで、最小は10×4mmであった（図2）。地下部の巣の引き抜きを試みたところ、周囲の地面は

固く、地上部を指でつまみながら巣全体を引き抜くことはできず、途中で巣が切断されてしまった。そこで句碑台座部分に見られた比較的大型の2つの巣を剣先スコップで掘り出したところ、地上部の約2倍ほどの長さを持った地中部の巣が掘り出され、中からそれぞれ1個体のジグモを採取することができた（図3）。採取されたジグモはいずれもメス個体であり、標本は利尻町立博物館にて保管する。

この場所には多数の巣と、地上部の長さやおきに様々なサイズがみられたことから、2014年以前に定着・営巣が行われたと想像された。しかし、今回確認された営巣場所では、樹木の植栽や構造物の新築などが最近行われたことはなかったため、それらにジグモが直接附着してこの場所に持ち込まれた可能性は低い。園芸や建築に関わる資材など島外から搬入されることも本島では少なくないため、なんらかの方法で人為的に持ち込まれた他地域のジグモが島内での分布拡大によりこの場所に移動・定着したと考えられるほか、本種は糸を使った飛行行動による移動を行うため（小野，2009）、他地域から直接移動してきたことも考えられる。現在までに確認された島内の分布は本地点のみであるが、今後、島内や周辺地域での分布調査が行われることで、本種の道北北部における定着や分布拡大の要因について更なる解明が進むことが期待される。



図3. 巣から採取されたジグモ。

**参考文献**

- 小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会. 738pp.
- Ono, H., K. Kumata, M. Sadamoto & E. Shinkai, 1991. Spiders from the northernmost areas of Hokkaido, Japan. *Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo*, 24: 81-103.
- 松田まゆみ, 1997. 北海道産クモ類目録. ひがし大雪博物館研究報告, (19): 1-46.
- Saito, S., 1933. Spiders from the Islands of Rishiri and Rebun with descriptions of two new species. *Proc. Imp. Acad.*, 9: 273-276.
- 八木沼健夫・大野正男, 1967. 北海道沿岸島嶼の真正蜘蛛類. 東洋大学, 教養 (自然科学), 8: 13-29.
- 保田信紀, 2002. 利尻礼文サロベツ国立公園のクモ類. 利尻研究, (21): 5-28.